

広報

第65号



平成29年2月

祈りの道

東日本大震災 慰霊行脚



平成28年
5月6日～11日

5月6日
宮古市 常安寺 出発

5月6日
南相馬市 同慶寺 出発

5月11日 正午
石巻市 洞源院 着

巻頭特集
祈りの道振り返り

教化センター設立
40周年記念式典

被災地のお寺は今

見守り観音堂
お地藏さんプロジェクト

法話

私も仏になれる

教化センター布教師 細川正善

平成28年度 行事報告

曹洞宗婦人会東北管区研修会

青少年教化指導者研修会

第46回 教化フォーラム

第47回 教化フォーラム

特派布教と青森県伝道車巡回布教

布教講習会

平成28年度 禅をきく会



曹洞宗東北管区教化センター

〒981-3117 仙台市泉区市名坂字樋町169-4
TEL.022-218-1381 FAX.022-218-1382
<http://soto-tohoku.net/> e-mail: kyouka@seagreen.ocn.ne.jp

東日本大震災 慰霊行脚

祈りの道



振り返り

平成28年10月28日
宮城県宗務所会議室

記念事業実行委員
新川泰道師、鈴木仙英師、
センター主監
聞き手…三部義道



北ルート	330km
南ルート	219km
行脚者数のべ	123人
慰霊ヶ所	71ヶ所

平成28年

5月6日～11日

5月6日 宮古市 常安寺 出発

5月6日 南相馬市 同慶寺 出発

5月11日正午 石巻市 洞源院 着

東北8宗務所の青年僧侶が、リレー形式で被災各地を行脚。大本山永平寺、大本山總持寺の両禪師様が揮毫されたお礼と、恐山の灯火、善寶寺の浄水を奉持して被災地を行脚した。

東北管区教化センター
40周年記念事業
「祈りの道」振り返り

三部…東北管区教化センター40周年記念事業として、被災地慰霊行脚「祈りの道」を5月6日から11日までの6日間にわたり実施し、無事円成しました。

その際、南北それぞれのルートの担当者として全日程を同行された新川泰道師、鈴木仙英師に話を伺いながら、事業の成果について振り返ってみたいと思います。聞き手は、この事業の企画と実施を担当させていただいた三部義道が務めます。

始まる前の印象

三…まず、鈴木さんは、この事業の企画から関わってきたわけですが、はじめどのような思いをもっていたでしょうか。

鈴木…これは大仕事になるなというのが第一印象でした。行脚する範囲も広いし東北各県からの参加者も大所帯になるし、意思の疎通、連絡等、心一つにして事業を実施することができると不安でした。

三…新川さんはいかがでしたか。

新川…震災以降、様々な形で被災した地域の皆さんと関わってきたが、もつとできること、すべきことはなかったのかと自問自答しながらの5年間でした。この企画に担当者として参加させていたでくことで、少しは罪滅ぼしができるかなと感じました。

三…はじめに、行脚するコースを決めるための下見をしなければなりませんでした。1日歩ける距離は20〜30キロとして、同じ日に石巻に着くためには、どこから出発して何日間歩けばいいのか。宿泊中継場所は、休憩場所はと探し

ながら下見しました。私は北4回南4回下見に行きましたが、鈴木さんはそのうちの何回でしたか。

鈴木…北2回南2回の4回ですね。地図上で距離計算するのと、実際に現場を見るのでは違いも大きく、随分時間がかかりましたね。

三…6日間で歩ける距離ということで、結局、岩手県の宮古市と福島県の南相馬市小高区からの出発となりました。新川さんも下見から関わってこられましたか…。

新…(慰霊箇所など)現地の方々の思いを汲み取れるようにと、コース設定は大変でした。スタート地点まで行くのに時間がかかるので、1回では全行程を下見できずに3回行きました。実際に行ってみると歩道がなかったり、トンネルがあったり、安全確保のためにも下見は重要でした。

行脚の中で大変だったのは

鈴木…私は南ルート担当でしたが、行脚者の安全確保に気を遣うのが一番大変だったですね。特に福島

を歩くので気を遣いました。前日の夕方に下見をして危険箇所をチェックしたりしました。それと、行脚者のモチベーションを高めていくことにも心を配りました。



もう一つは、恐山で採火した灯火をリレーしたわけですが、移動中や夜中もカイロに火を移して消さないようにするのが大変でした。その点では6日間通して協力を頂いた清月記のスタッフの方にお世話になりました。

新…風の強い時にローソクが消えたことがあります。バックアップ用のローソクから移したり、夜中も火を気にかけてながら寝てました。

雨の時、慰霊の際のテントの準備など不備な点もあったので、地元の葬儀社などにお手数おかけしました。特に最終日は悪天候のため、船が出ないことで急遽陸路での移動ということになりましたが、地元の和尚さんの道案内がないと難しかったです。



行脚者の様子

三…行脚者のモチベーションはいいかがでしたか。

鈴木…歩く前は不安であることを口にされていた方も、到着した時には達成感が感じられていました。いい経験をさせていただいたとい

う声がたくさんありました。

行脚者の中で、予定のコースを歩いた後に追加して歩く志願をされた方もいました。歩くことで更に気持ちが高まってきたのだと思います。

新・皆さん自発的に、意気に感じて行脚に参加されていると思います。雨の日にコースをショートカットしようか、車で移動しようかと提案しましたが、「せっかくだから予定通り歩こう」と言ってくれたりしました。

被災地に何度か足を運んだ人は変化していくまちの様子について語っていましたし、初めて訪れた方は実際に肌で感じて、感慨深いものがあつたと思います。

三・行脚者の人数は、基本的に3名としていましたが、多く参加された宗務所もありました。

新・山形第一の皆さんは最後十数名で歩きましたが、それは圧巻でしたね。原則として3名ということでしたが、大勢の行脚ができればよかったと思います。

慰霊地、被災者の様子

三・慰霊場所で待つて迎えてくれた方がいましたね。

鈴・教区の寺院や青年会の方がお声がけしてくれました。テレビのニュースを見て集まった方もいました。到着時間が遅れてしまったときも待つていてくれました。

新・梅花講の皆さんのお唱えや、幼稚園が併設されたお寺では園児たちの参列もありがたかったですね。

三・差し入れや浄財をいただいたことも。

新・コンビニの店員さんから差し入れていただいたり、道々声をかけて差し入れや浄財をくださる方もいました。工事関係者の方が声をかけてくれたことも度々ありました。

鈴・南では、バイクで追いかけて浄財をくれた方、軽トラックで孫とおばあちゃんが待つていてくれて、お菓子と水を差し入れてくれたことがあります。





5 月 11 日 無事洞源院到着

新…現地の慰霊参加者が、家族を亡くした状況や被災の様子を行脚者に話をされる場面が多々ありました。行脚者がそれを噛み締めながら歩くというような感じでした。

心に残ったシーン

鈴…到着したときの行脚者の充実感、達成感の様子に感動しました。

新…本堂も庫裡も流された寺院で、

檀家さんや地域の人が集まってくれました。伽藍がなくても一時でも集まり法要することでお寺の存在意義のようなものを感じ、ありがたいうるか切ないというか、複雑な気持ちでした。

三…唐桑のコンビニで行脚者の到着を待っていると、車で通りかかった年配の男性がやってきて人数分の缶コーヒーをごちそうしてくれました。話を伺うと、「自分は気仙沼の大島の人間で、九死に一生を得た、しかし島では31名が亡

くなった。だから私は島に桜の木を31本植えて供養して、毎月11日には寺の梵鐘を31声撞かせてもらっている。あなたたちが歩いている姿を見てうれしくて何かしたかったんだ」と話してくれました。お坊さんが歩くことで触発された人も少なからずいたのだと思います。

新…大船渡市吉浜の「奇跡の集落」は亡くなった方の慰霊碑ではなく、過去の津波の教訓で助かった記念碑だったわけですが、今回の行脚は、教訓を伝えてくれた方々への感謝の意味もあったと思いました。そして、今回の行脚の参加者がこの経験を通して、未来に何を伝えていくかという意味もあると思います。

今後に向けて

三…この事業を終えて、今後に向けて考えることは。

鈴…私たち僧侶が歩いて気づいたこともありましたし、また周りの人が僧侶が歩く姿を見て気づいたこともあったと思います。お坊さんでなければできないことがある

はずなので、今後も僧侶としてこの震災に関わり続け行動し続けていくということでしょうか。特に今回歩いた地区には愛着のようなものを感じています。

新…今回のタイトルは「祈りの道」でしたが、「祈り」は言葉や心の問題だけではなく「形」や行動にして意味があるものだと思います。今後、規模はどうであれ、こんな行動が継続していつてほしいと思います。

主監…今、センターでは慰霊ガイドマップの作成を進めています。今回の事業をきっかけにして、それぞれの宗務所単位あるいは青年会、一般の方々も、慰霊碑を訪ねてみたい、歩いてみたいという方が出てくれればいいなと思っています。

三…今回の「祈りの道」を通して僧形で歩くことの意義を改めて感じたわけですが、それがまさに身業説法でもありました。今後も僧侶として祈りを形にしていくなことになればいいと思います。お互いに本当にいい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

東北管区教化センター設立40周年記念式典



教化センター
設立40周年

12月1日開催 会場：江陽グランドホテル

教化センターと所縁の深い方々、
管区内外より80名のご出席の下、
盛大に挙行された。

挨拶

曹洞宗東北管区教化センターが、本日に40周年を迎えることができましたのは、偏に歴代関係諸老師のご尽力並びに管区内ご寺院のご指導ご協力によるものと存じ、深く感謝申し上げます。

東日本大震災以来、韓国曹溪宗の百か日法要・兩禪師による一周忌と復興祈願法要・震災記録集とそのリーフレット作成・募金缶と呼びかけポスター及び付箋「忘れま箋」「心の柱」など展開し、5月には慰霊行脚「祈りの道」を円成できました。

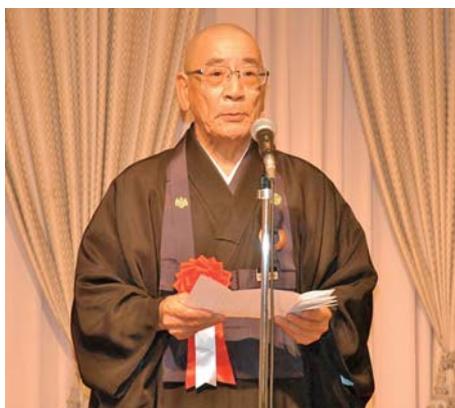
さて今、社会は孤立化が進み、「人の世話はいしたくもないし、されたくもない」という「お一人様」が増えていきます。被災地では移転を余儀なくされた人たちの寺離れも進んでいます。設立41年目を踏み出すに当たり、当センターの役割は、不特定多数の都市開教のみならず、寺院が檀信徒との絆を深めるお手伝いをする事です。特に東北では、被災者は勿論、縁ある多くの人とともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む姿勢を基本として参りたいと存じます。

曹洞宗東北管区教化センター

統監 高橋 哲秋



祝辞 山本健善 教化部長



式辞 高橋哲秋 統監



乾杯 小野崎秀通 宮城県宗務所長



曹洞宗管長 表彰者

歴代管区長 秋田県 清水 忠道 老師 福島県 吉岡 棟憲 老師 山形第一 佐々木俊雄 老師 宮城県 三宅 良憲 老師 山形第三 佐藤 良裕 老師	歴代役員 宮城県 早坂 文明 元統監 山形第一 鈴木 仙英 元賛事
---	---



表彰者謝辞 歴代管区長 佐々木俊雄 老師

シリーズ「被災地のお寺は今」第7回①

見まもり観音堂落慶

〈全国からの思いが形に〉

見守り観音堂建立の会 事務局長 竹内 聖 哲

「少しでも力になりたい」

この願いのもとに動き出した

3・11の大震災で亡くなられた方々をご供養するお堂「見まもり観音堂」が石巻市桃浦の洞仙寺様（住職・八巻芳栄）に完成。11月22日、大本山總持寺副貫首石附周行老師をお迎えしての落慶法要と七回忌法要が修行された。

間口7間、奥行き3間のお堂の中央に聖観世音菩薩様、両側に各県別の亡くなられた方々のお位牌、一石いっせき写経された浄石2万個が納められ、あわせて、仏舍利が奉納された。

この日、昼前には、当日の朝起こった地震の津波警報も解除され、小春日和のもと、この取り組みを進めてきた「建立の会」のメンバー等全国から550人が参集、1000人の僧侶による読経がひびいた。

東北管区教化センター様、宮城県宗務所様、地元ご寺院様方のさまざまなお力を頂き、また、洞仙寺様の多くの檀信徒と地域の皆さんの心のこもった歓待をうけ、手作りのご供養が丁寧に進められた。



震災後、全国的な運動に呼応し、佐久地方のメンバーたちも、直ちに支援活動を始め、3月末日、トラック2台半の救援物資とガソリン等を届けることを手始めに度々、石巻、女川、南三陸、気仙沼等を訪ねるようになった。活動中のご家族や友人を失ったご遺族の悲しみやつらさに出会い、「少しでも皆さんの力になりたい」と願った。

観音堂建立の呼びかけは長野県佐久地方の有志「建立の会」のメンバー（代表、番松院住職増田友厚）による震災から2年、3つのコンセプト「祈り（ご供養）、希望（復興支援）、縁（絆を深める）」を掲げ、引き続き支援を考えた。

折しも、活動の中で出会った洞仙寺様に、大津波で全壊した本堂にあっても、流された村と村人を見守るように無傷のまま残った観音様がおられることを知った。洞仙寺様のご理解を頂き、本尊様として迎え、「見まもり観音さま」とお呼びし、震災で亡くなられた2万人の総合供養のお堂建立をめざし、佐久地方100名による「建立の会」の活動が始まった。



取組みの3つの柱、
浄財募金、浜供養、浄石2万個
写経

親から子へ、友から友へ、次の友へ

建立の願いは、親から子へ、友から友へ、またその友へと伝えられた。少しずつ協賛の輪が広げられ、北海道から九州まで老若男女4万2千人を超えた。多くのご寺院様からお力添えを頂いた。「思いを真剣に丁寧にご話せば、皆共感して力を下さいます。ありがたいです」4年近い綿密な取組みを進めてきた事務局の皆さんは語った。

青森から千葉まで60ヶ所でご供養

2つ目の柱は、亡くなられた方々とご遺族の想いを訪ね、その地の人々や住職さん方と一緒に浜辺供養をいたすこと。

「皆さん一人ひとりが自分の人生を大切に生き、今も親しい人々を案じ見守っておられること、忘れません」と念じ続けた。

浄石2万個に写経、奉納

3つ目の柱はご供養の時、その地で、浄石（小石）を拝集し持ち帰り、亡くなられた方々の人数と同数の2万余を数えた。佐久地方の寺々、集会場、保育園等で写経会が重ねられ完修、この度、「見ま

もり観音堂」に運ばれ、観音様に抱かれるように奉安された。

ありがとうございます。
永くご縁を重ねていきたい

「この取り組みは、『被災地の皆さんが、切なさやつらさを抱えながらも、前を向いて生きておられる。そのお姿を決して忘れません』と私たちが互いに誓いあう営みでもあります。ささやかですが、これからは、3つ目のコンセプト縁（えにし）を大切に進みたいと願っています。全国各地の皆さん、温かいお心ありがとうございます。」と増田代表は語った。



シリーズ「被災地のお寺は今」第7回②

『お地蔵さん』プロジェクト 慰霊と集いの場に

認定NPO法人「被災地に届けたい『お地蔵さん』プロジェクト」 理事長 葦原正憲



私たち「お地蔵さんプロジェクト」は、平成23年に起った東日本大震災の年から、津波犠牲者のあった37の自治体全てにお地蔵さんをお贈りすべく活動を続けています。

活動の資金は全国の方々からの寄付で賄っており、この中には曹洞宗寺院、檀信徒の皆様からも多

くの善意をお寄せいただきました。

これまで8体のお地蔵さんを岩手、宮城、福島各県にお届けしましたが、設置場所は、官地や復興公園計画などにより、自治体からの収用が予定されている民地が中心となっております。

最初のお地蔵さんは平成25年の



石巻市でした。「地元の方々の希望に沿ったお地蔵さんを」と相談した結果、三体が身を寄せて一つになったお地蔵さんになりました。

大人の身の丈ほどのお地蔵さんを中央に、その両脇から幼児の背丈ほどのわらべ地蔵が見上げるように寄り添っています。

以来、お地蔵さんはこれにならった三体で一つのものになりました。真ん中のお地蔵さんに手を合わせ、両脇のわらべ地蔵の頭や顔を撫でる。そんな光景をよく目にします。これは村のはずれのつじ地蔵をイメージしたものです。

日本各地の辻や野辺に立つお地蔵さんは、新潟や長野で路傍に多く見られる「道祖神」と「地蔵菩薩」が習合したものだと言われています。



サンスクリット語で「地蔵」という言葉には、「大地」と「胎内」の意味を含みます。自然、その恩恵とともに天災の被害を受け、畏敬の念を抱きながら、犠牲者を悼み、再生を願う。古くから繰り返されたであろう営みます。

自然と人間の折り合いをつける日本人の心のあり方を形づくり、その象徴として「お地蔵さん」と



いう日本の慣習・文化と
なったのでは
ないでしょう
か。

道端にある
古いお地藏さ
んも、かつて
震災、あるい
は飢饉などの
天災を経て、
現代と同じよ
うな思いで作
られ、地域の
人々と共にあ
り続けてきた
のではないか
と、そんな思
いがよぎりま
す。

被災された各自治体
で公式な祈りの場とし
て震災の記録を残す慰
霊の碑が建てられてい
ますが、土地の記憶に
寄って立ち、人に寄り
添い、ごく私的な感情
のやり場となるお地藏



さんは、行政では直接着手しづら
いものであり、そこに私たちの活
動の意義があると感じています。

「お地藏さんプロジェクト」は平
成26年に公益性と社会貢献にかか
る基準をクリアし、認定NPO法
人となりました。これも、私ども
の活動に価値を見いだし、支持と

ご寄付をいただいた多くの皆さま
のおかげと感謝しています。

最近では、昨年8月に宮城県岩
沼市の「千年希望の丘」に、宗教
学者の山折哲雄先生をはじめとす
る京都の方々から寄贈いただいた
お地藏さんを建立することができ
ました。

この8月24日という日は、主に
近畿地方で「地藏盆」という子供
の祭りが、辻地藏を囲み催される
日です。

被災地では、毎年3月11日、慰
霊法要が各所で行われます。私た
ちがお贈りしたお地藏さんも月命
日を始めていっても、慰霊と集いの
場となります。

これからもお地藏さんが慰霊の
場であるとともに百年、千年にわ
たり土地と人をつなぎ、新たな文
化をつくる場所であってほしいと
願い、残り30体以上のお地藏さん
を一つ一つ大切に建立していきたく
と思います。

(山形県 長源寺住職)

平成28年度 行事報告

青少年教化指導者研修会

・9月1日～2日

・宮城県 メルパルク仙台

・講師

●曹洞宗総合研究センター副主任研究員

「現代における坐禅普及の一提案」

小杉瑞穂 先生

●NPO法人子どもグリーンフサポートステーション

「青少年教化とファシリテーション」

代表 西田正弘 先生

●福島県長秀院住職・人権啓発相談員

「人権学習～曹洞宗の人権～」

渡辺祥文 老師

●事例発表 各宗務所より8名

・参加者 65名



布教講習会

・10月5日～6日

・宮城県 メルパルク仙台

・講師

●京都府隠龍寺住職

「葬儀の意義を再認識する」
「葬儀を縁とした布教」

児玉哲司 老師

●特派布教師・秋田県梅林寺住職

「布教の現状」
「布教師としての心構え」

木村高寛 老師

●人権学習DVD上映

「明日へ『ひと』として～啓発から行動へ～」

・参加者 39名

特派布教と青森県伝道車巡回布教

・特派布教師 滋賀県常栄寺住職 弘海明道 老師

伝道車布教端坐指導・DVD上映

6月4日(青森市)松丘保養園

6月5日 四教区 宗全寺

6月6日 一教区 恵林寺

6月7日 三教区 高澤寺

6月8日 二教区 昭傳寺

6月9日 五教区 光昌寺

6月10日 八教区 円通寺

6月11日 六教区 光龍寺

6月11日 七教区 涼雲寺



第46回 教化フォーラム

・ 7月27日

・ 宮城県 メルパルク仙台

・ 講師

● 精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科教授

香山リカ 先生

「禅とマインドフルネス」

・ 参加者 43名

〈略歴〉1960年北海道生まれ。東京医科大卒。豊富な臨床経験を生かして、現代人の心の問題を中心にさまざまなメディアで発言を続けている。専門は精神病理学。
NHKラジオ「香山リカのココロの美容液」でパーソナリティをつとめる。北海道新聞(ふわっとライブ)、中日新聞(香山リカのハート・ナビ)、毎日新聞(ココロの万華鏡、創(こころの時代) 解体新書)



第47回 教化フォーラム

・ 11月15日

・ 宮城県 メルパルク仙台

・ 講師

● 東北学院大学教養学部地域構想学科教授

金菱 清 先生

「呼び覚まされる霊性の震災学」

・ 参加者 23名

〈略歴〉1975年大阪府生まれ。関西学院大学社会学部卒業後、関西学院大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。2005年東北学院大学教養学部専任講師、准教授を経て、2014年より現職。専門は社会学・災害社会学。東日本大震災関連の著書に、『震災メメントモリー 第二の津波に抗して』(新耀社)、『震災学入門―死生観からの社会構想』(ちくま新書)、『編著に『3・11慟哭の記録―71人が体感した大津波・原発・巨大地震』(新耀社) (第9回出版研究会新聞社芸文化賞)、『千年災禍の海辺学―なぜそれでも人は海で暮らすのか』(生活書院)、『呼び覚まされる霊性の震災学―3・11生と死のはざま』(新耀社) など。



曹洞宗婦人会東北管区研修会

・ 7月5日～6日

・ 青森県 馬門温泉「まかど観光ホテル」

・ 講師

● ジャーナリスト 川村晃司さま

「災害時における報道機関の役割」

● 作家 詩人 青木新門さま

「いのちのバトンタッチ〜映画『おくりびと』に寄せて〜」

● 弘前市市民文化スポーツ部文化スポーツ振興課

主幹 齋藤春香さま

「世界一への挑戦〜被災を乗り越え東北に元気を〜」

・ 参加者 365名



平成28年度 禅をきく会

・第148回 4月7日(木)

会場：楽楽楽ホール

●元NHKアナウンサー

村上信夫 さん

「嬉しいことばが自分を変える」

・参加者 172名

・第149回 6月1日(水)

会場：楽楽楽ホール

●千葉県宝林寺住職 千葉公慈 老師

「やさしい唯識のお話」

「心のしくみを考える」

・参加者 468名

・第150回 8月3日(水)

会場：楽楽楽ホール

●作家

「仏教と神道」

井沢元彦 先生

・参加者 260名

・第151回 10月27日(木)

会場：楽楽楽ホール

●東北福祉大学学長 大谷哲夫 先生

「はてしなき求道の旅」

・参加者 214名



・第152回 12月1日(木) 会場：東京エレクトロンホール宮城

●沖縄民謡歌手

「みるくゆがふ 弥勒世界報」

古謝美佐子さん & うないぐみ

・参加者 800名



・第153回 平成29年2月1日(水)

会場：楽楽楽ホール

●愛知専門尼僧堂堂長 青山俊董 老師

「今ここをどう生きる」

「選ぶ人生と授かりとして いただく人生と」

・参加者 370名



法話 私も仏になれる



教化センター布教師

細川正善

「受戒するが如きは、三世の諸仏の所証なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不壞の

仏果を証するなり、誰の智人か欣求せざらん」修証義第十六節

受戒するが如きは

ここでいう受戒というのは、戒師様から「戒法」を品物の様に受け取ったり、与えたりするものではなく、私が自分自身の仏心に目覚める事であり、その自分が全く仏様と同じ徳分が具わったのだと自覚することです。

どの仏様のお身体にもこの三帰・三聚浄戒の戒法の徳が全部ちゃんと身についていらっしゃいます。これを受持（持戒）するということとは自然に戒法が心身に具わっていることをいいます。

仏の戒法は、直接手に持って、これがその「戒」だと感じ得るものではありません。道元禪師様が、

日本へ正伝の仏法を伝えられましたが、何も持ち帰った特別なものではなく、「一毫も仏法なし」と仰せられました。既に戒法の徳を身体につけてしまっただけで、もう戒徳で心身が出来上がってしまった状態であり、その戒法を持戒相續して、今日に伝えられているのが宗門の「禅戒」であります。

しかし、私たちはすでに受戒によつて、その戒法が具わっているものにも拘わらず、常に目前の形あるものに固守し、貪・瞋・痴の三毒に迷い、比較・優越をつける生活を営んでおります。そこには、物のやりとりを通してしか、自分の存在価値や安心を確かめられない私があるわけです。

お釈迦様、道元禪師、瑩山禪師は真の安心は、品物のやりとりによつて得られるのではなく、自分自身への目覚め、自分が仏様と全く同じ徳分が具わったのだと自覚することだといわれます。

誰の智人か欣求せざらん

—私も仏になれる—

私たちは、受戒を通し得難い仏法に合ひ、そして、その歓びは、見仏・聞法・出家・得道の中に現れます。それは仏様にお目にかかれた歓び（見仏）、そしてその仏様の教えを身にしみてうけたまわられる歓び（聞法）、そして仏様の行を実践する歓び（出家・得道）、まさに人身という命を受け、この世に生

まれ修行（上供菩提下化衆生）出来る幸せを日々感じて生きていく、そういう道理と智慧ある人は、自ずと仏と同じ道を歩んでいるわけです。

しかし、貪・瞋・痴の我見に囚われている人にはその歓びを感じることが出来ません。我見に落ちると、この世に生まれても少しも有難く思わない日々をいたずらに過ごしてしまいます。

願わくば、道理に目覚め、怠ることなく、活き活きと暮らしていきたいものです。

（福島県 天徳寺住職）

平成二十九年 研修会予定

青少年教化指導者研修会

- ・期 日 9月13日 (今回は1日の日程)
- ・会 場 モントレ仙台
- ・講 師 東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 教授 中野民夫先生 他



1957年生。東京大学文学部卒。30年の広告会社勤務を経て、同志社大学教授を経て、2015年秋から現職。大教室でも参加型の授業を展開。1990年前後に休職留学したカリフォルニアの大学院CIRSで組織開発やワークショップについて学ぶ。以後、会社勤めの傍ら、人と人・自然・自分自身をつなぎ直すワークショップやファシリテーション講座を实践。主著に「ワークショップ」(岩波新書)、「みんなの楽しい修行」(春秋社)、「ファシリテーションで大学が変わる」(共編著、ナカニシヤ) など。

布教講習会

- ・期 日 11月28日～29日
- ・会 場 モントレ仙台
- ・講 師 (株) 寺院デザイン 代表取締役 薄井秀夫氏 他



1966年、群馬県生まれ。東北大学文学部卒業(宗教学専攻) 中外日報社、鎌倉新書を経て、平成19年に株式会社寺院デザインを設立。著書に「10年後のお寺をデザインする」「人の集まるお寺のつくり方」「寺院墓地と永代供養墓をどう運営するか」「どこが違うのお仏壇」(以上鎌倉新書) など。

第48回 教化フォーラム

- ・期 日 7月27日
- ・会 場 モントレ仙台
- ・講 師 ファイナンシャル・プランナー 行政書士 勝 桂子先生



雑誌記者として15年間活動したのち、2007年に「うちらOK 行政書士事務所」開設。通言、相続、改葬、リタイアメント後のライフプランなど終活分野全般の相談に応じるほか、外国人の出入国管理業務、法人向け業務として社団財団の公益認定申請、非営利法人の設立なども得意としています。『いいお坊さん ひどいお坊さん』(ベスト新書) 著者として、僧侶研

修での講演、寺社の企画運営・経営相談なども行う。2013年より曹洞宗宗務庁「現代にふさわしい教団の理念、教団のあり方に関する分科会」委員。また、生きづらさと向きあう任意団体ひとなみを主宰し、宗教者や医師、士業者、葬送分野の専門家と般のかたをまじえた座談会を随時開催しています。

平成二十九年 禅をきく会

会場：仙台市「楽楽楽ホール」各講演 2時30分より4時30分

第154回 4月6日(木) 参加費 500円

神奈川県建功寺住職・庭園デザイナー 枡野 俊明 老師
「現代に生かす禅」

第155回 6月1日(木) 参加費 500円

曹洞宗特派布教師・宮城県広瀨寺住職 奥野 昭典 老師
「ともに生きる」

第156回 8月30日(水) 参加費 500円

コメディアン・落語家 山田 たかお 氏
「笑いは健康・長寿のもと」笑いは心身をリフレッシュし幸せを呼ぶ」

第157回 10月26日(木) 参加費 500円

曹洞宗特派布教師・秋田県洞雲寺住職 柴田 康裕 老師
「伝え受けつぐ道」

第158回 12月7日(木) 参加費 無料

仙台育英学園硬式野球部 監督 佐々木 順一朗 先生
「本気にさせる言葉力」

第159回 平成30年2月8日(木) 参加費 500円

愛知専門尼僧堂堂長 青山 俊董 老師
「視点を変えてみよう」